

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390103093		
法人名	社会福祉法人 諒和会		
事業所名	グループホーム ひまわりの里		
所在地	熊本市西区松尾町近津1359		
自己評価作成日	令和6年 2月 7日	評価結果市町村報告日	令和6年 4月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	令和6年 3月 13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

令和4年10月にオープンしたひまわりの里は、「ありがとうの心をさりげないやさしさに」という理念のもと、入居前に利用者様、ご家族様の思いや意向、ご本人の生活歴等を伺い、職員で共有し、不安なく入居ができるよう努めている。入居されてからも、職員からの話かけや、行事やレクリエーション、個別での散歩、お手伝いなどで生きがいを持って生活して頂ける様取り組んでいる。食事は3食ホーム内で季節のものを取り入れたメニューを作成、調理し、好き嫌いや形態の変化に迅速に対応している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍での開設で、面会等にも制限がなされた中での支援にもご苦労されたことと思います。従来運営されていたグループホームに隣接する新たなグループホームとして開設から1年半程が経ち、試行錯誤しながらも職員体制を整え、これまでの経験による職員育成やケアの統一化に取り組まれている様子をうかがうことができました。様々な勤務体制や勤務時間もありながら、職員研修も続けられており、2事業所で力を合わせて取り組まれている様子が聞かれました。入居者に対しては、それぞれの身体状況や認知症の症状に合わせ個々に合わせたケアがなされています。従来からの職員手作りで季節を感じる食事の提供は現在も続いており、入居者の喜びを感じます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ありがとうの心をさりげないやさしさに」の理念のもと職員綱領を作成し事務所に理念と綱領を掲示しておりその人らしい暮らしができるよう取り組んでいる。	職員の入職時には初日に理念や方針等の研修を受けており、職員は毎年1回理念についての研修会を行っている。	新事業所開設もあり、職員体制の確立に取組む様子が聞かれました。出勤形態も様々であることから、理念の共有に向けた取組みの継続に期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染予防の為、地域の方を招いた行事や、法人内の行事は控えているが、近所への散歩等で近所の方にお会いした際、情報交換を行っている。	法人全体での感染対策により、地域住民と入居者が関わる機会作りが難しかった。散歩時に地域の方と挨拶を交わしたり、地域役員の方へ管理者より広報を届けたりと日常的な付き合いは従来より続いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事前面談でご本人様の思いやご家族様の思い、また当事業所の理念等をゆっくり話し合い、ご本人やご家族様が求めているものを理解し受け止めるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所内での新型コロナウイルス感染や、職員やその家族の感染があり、会議の開催は出来ていないが、推進委員に広報誌を提供したり、個別に訪問し情報交換を行っている。	コロナ禍及び感染対策のため、毎回の会議の開催が難しい状況であった。会議の開催ができなかった際には管理者より広報誌を届け、事業所の状況を報告した。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター職員とは、月に1回程度地域の状況や、グループホームの実情等報告し連携を行っている。	地域包括支援センターを訪問し、状況や取組みを報告、情報交換を行っている。市役所・区役所へは日頃の報告・連絡・相談、届け出の訪問等を機会に状況報告を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営理念に基づき身体拘束をしないケアを行っている。また、事業所でも年に2回、身体拘束の勉強会を実施。身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人全体で開催される委員会に管理者又は主任が出席している。事業所内では年2回の研修を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	どのような行動、言動が虐待に相当するのかを事業所内での勉強会で学ぶ機会を設けている。また、職員同士でお互いに気づいた事は注意し合える環境に努めている。		

グループホームひまわりの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	月1回、事業所内で勉強会を行い知識を得る機会を設けている。勉強会での内容を職員一人ひとりが考え日々自己研鑽に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時、改定時は文章及び口頭で丁寧な説明を行い、事業所独自の規定についてもきちんと説明を行った上で疑問等に答え理解、納得して頂くよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	感染対策の為、ご家族との面談や面会は玄関若しくは、陰圧機を備えた地域交流室で行っている。又電話で入居者の日常の様子等をお伝えしながら、ご家族の要望を伺っている。	感染症対策を行いながら家族の面会を受け入れており、来所の際は職員より声を掛け入居者の状態を報告するとともに意見を尋ねている。家族には毎月広報誌を送り、事業所の取組みを伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回法人の代表者が集う会議に出席し、グループホームの実情や、提案を行っている。また月一回、さくらの里と合同で、ミーティングを行い職員の意見や提案を聞き運営に反映している。	今年はさくらの里・ひまわりの里合同の職員会議を開始し、マニュアルに沿ったケアの振返りやケアの共有を行い、職員の意見を表す場でもある。管理者は両事業所の申し送りに参加しており、職員はいつでも意見や提案を伝えることができる。法人の運営会議には管理者が出席している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得や外部研修の支援を行っており各自の意識や介護技術向上に努めている。また認知症ケアのスキルアップの為、認知症実践者研修、リーダー研修等も受講出来るように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内で勉強会を月一回行っている。また新人職員には、マニュアルに沿った項目ごとに指導を行い、個々の知識や技術の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	熊本市のグループホーム連絡会に所属し意見交換等ができる環境を整えている。また外部研修には多くの職員が参加できるようにフィードバックを行う事でサービスの質の向上に努めている。		

グループホームひまわりの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の施設見学の際、利用者及びご家族様から要望や不安点を伺い、それに対応する必要な説明を行っている。また、ご本人への訪問調査を行い、入居後スムーズに対応できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談でご本人様の思いやご家族様の思い、また当事業所の理念等をゆっくり話し合い、ご本人やご家族様が求めているものを理解し受け止めるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居されてから暫く、ご本人様をアセスメントし担当職員を含めてカンファレンスを行った上で現段階での必要な支援を職員間で共有して行えるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活を営む住居人として生活内での役割を可能な範囲で担って頂き、共に生活を行う中で入居者同士のスムーズな関係が築けるよう職員が関わっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には家族会や法人の行事等に参加して頂いたりしていたがコロナ禍継続に於いて直接触れ合うことが難しい為、電話でご本人様の状況説明やご本人様と直接会話して頂く機会を設けたり、リスクレベルに応じて玄関での面会を実施している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染予防の為、居室内での面会は中断しているが、玄関や地域交流室、併設特養の陰圧機内にて面会を行っている。	従来からの生活をできるだけ継続できるよう支援している。化粧水等は以前から使い慣れた好みもあり、家族の協力も得ながら提供している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや集団体操や運動レク、お手伝い等で、入居者の方向士が交流出来るよう職員が間に入り会話がスムーズ出来るように支援している。		

グループホームひまわりの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所に移動したり、入院し退去された方に相談員やソーシャルワーカー等から、その後の経過をお尋ねしたり、ご家族様に連絡し意向の確認を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の体調や心境、思いを普段の何気ない会話や仕草等で確認し、把握するよう努めている。またご家族から本人の思いを伺い、意向の把握に努めている。	現状は自ら思いを表すことができる方も多く見られ、入居者の言葉や出来事は申し送りでも共有している。家族に会いたい等の希望には家族へ連絡する等、協力も得ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、これまで担当されていたケアマネジャーに伺い情報収集に努めている。ご家族に確認するとともに入居前後の面談時にご本人やご家族に生活歴や、経過を伺い、情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	担当職員を中心に全職員で生活状況を観察し、心身機能の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員を中心に毎月モニタリングを実施し、半年に1回アセスメント表を作成し介護計画の見直しを行っている。ご家族には、電話や面会時に本人の状況をお伝えするとともに、ご家族の意向を伺っている。	担当職員による毎月のモニタリング、半年毎のアセスメントを行っている。担当者会議は管理者と担当職員、ケアマネジャーで行うが、できるだけ家族にも声を掛け参加頂いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の状況やサービス内容は個人記録として随時入力し、パソコン内や申し送りで情報共有を行っている。又介護記録をもとにモニタリングを行い計画書の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一日の流れや個々の日課はある程度決まっているが、状況に応じて食事時間をずらしたり、希望に応じて散歩にお連れしたり、入浴日の変更を行っている。		

グループホームひまわりの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の方々、各々の以前の暮らしを把握し、現状に従って穏やかで安定した生活を送って頂ける様に努める。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に以前からのかかりつけ医の診察も可能であることは説明している。グループホームの協力医療機関を希望された場合は、入居時に一度外来受診をし、次回よりグループホームにて往診して頂いている。	入居以前のかかりつけ医の継続した受診を支援している。現在は協力医をかかりつけ医とする入居者が殆どである。協力医からは毎週訪問があり、職員から一週間の様子・状況を伝えている。専門医受診の際は通院・訪問共にあり、家族の協力もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の健康状態や気づきは、週1回の往診時伝えたり、緊急の場合は、医療連携看護師やかかりつけ医に報告し、指示を仰ぐことで適切な対応が出来る体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は、病院のソーシャルワーカーと密に連絡をとり情報交換を行っている。また状況に応じ、かかりつけ医と入院先の医師と情報交換をして頂き、介護・看護の両面から対応出来るよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合や看取りについての事業所の指針を説明している。また重度化した場合は、ご家族様や、かかりつけ医と話し合いの場を持ち、グループホームで出来る事や、ご家族の意向を伺う場を設けている。	重度化や終末期に向けた事業所の方針と対応は入居時に説明しており、本人・家族の意向も確認している。実際にその時期を迎える際には話し合いを重ね支援を行うが、現状は、事業所での生活が難しくなった場合は特別養護老人ホームへの住み替えや入院の例が多い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会を定期的に行い、全職員が急変や事故発生時の緊急マニュアルの確認、対応ができるよう訓練している。入職時にもオリエンテーションを必ず行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に法人と共同で火災避難訓練を行ったり事業所で地震や水害等自然災害マニュアルの見直しを行っている。	今年の火災避難訓練は法人運営の他事業所と合同での開催であった。緊急時対応や災害等について年2回の研修を行っている。自然災害マニュアルは法人と管理者で行っている。	職員勤務体制も様々であり、有事の際は事業所職員での避難や安全確保が必要となることから、事業所単体での訓練や全職員での共有の場作りも必要と考えます。

グループホームひまわりの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の人格や意思を尊重し、入居者にあつた言葉かけや対応に努めている。接遇に関する勉強会も行っている。	日頃から入居者を尊重した言葉遣いや言葉掛けに配慮している。動画を利用し、介護における接遇について学ぶ機会を設けている。	現在ケアの統一に向け取組まれている様子が聞かれました。動画視聴後の意見交換等で、職員それぞれがどのような配慮を行っているか等、考える機会を持たれることに期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が考えた日課を押し付けるのではなく、入居者が自分の希望を表現し、それに応じて職員が日課を組み立てられるよう、入居者とのコミュニケーションを大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活スタイルを尊重したうえで、各業務を担当する職員が入居者の為にマネジメント出来るかを常に考えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	以前からの習慣を大切にし、必要な物があれば家族に依頼したり、グループホームで準備をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は季節感や入居者の好みを取り入れ立てている。好き嫌いが多い方には別メニューを提供している。調理においては、野菜の皮むきや盛り付けを手伝って頂いている。食事は職員と一緒に摂り楽しく食事が出来るよう心掛けている。	職員による手作りの食事・おやつを提供している。献立は事業所内で作成しているが、法人の管理栄養士によるサポートやアドバイスもある。職員も同じ食事を摂ることで入居者と話題の共有もある。好き嫌いには入居者個別に合わせた対応を行っている。入居者も参加し季節の保存食作りを行うこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食個々の食事摂取量をチェックし、献立は食材の偏りがないよう留意している。また、月1回併設特養の管理栄養士によるミールラウト、献立チェックをして頂き、助言を得ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入居者の能力に応じ歯磨きの声掛けや介助を行っている。又協力歯科の歯科衛生士が訪問し口腔内のチェック、口腔ケア指導を受けている。		

グループホームひまわりの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者、それぞれの排泄パターンを把握できるように排泄チェック表を用い職員間の情報の共有化に努めている。失禁に対し、原因の究明と対応等を検討し、なるべくオムツを使用せずトイレで排泄ができるよう支援している。	排泄パターンの把握や声掛け誘導等で、できるだけトイレでの排泄ができるよう支援している。失禁が度々みられるようになった際には誘導の時間等を職員間で再検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	好みに応じて、牛乳を提供したり、毎朝ヨーグルトや乳酸菌飲料を提供している。食事や水分補給の時間以外でも入浴後等お茶等を提供し必要量の水分摂取に努めている。また、散歩や軽い運動、腹部マッサージを行う等の対応で便秘の防止に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週2回を基本としているが希望があれば、いつでも入浴できる。また、夏場、汗をかきやすい方や、失禁があった際は入浴日以外でもシャワー浴を実施し、清潔の保持に努めている。	週2回の入浴を基本としている。できるだけ浴槽を利用してはいるが、難しい方や希望されない方でシャワーを利用する際は足湯等配慮している。入浴日に限らず必要な際には清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者、個々の状態や希望に応じ睡眠に影響のない範囲でベッドで休んでもらっている。寝具は備え付けがあるが自宅で使い慣れた枕や毛布を使用しリラックスして頂き快適な睡眠がとれるよう支援している。またリクライニングベッドも導入し、入居者の身体状況に応じた対応も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋は個人カルテに綴り常に内容の把握ができようとしている。処方薬の変更や追加薬等があった場合は朝、夕の申し送りノートに記載し、情報の共有を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力やその日の気分に応じて、洗濯物たたみや、お盆ふき等を手伝って頂いたり、花の水やりや趣味の編み物等して頂き、気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気の良い日は、周辺の散歩にかけ、景色を見ながら季節の移ろいを感じられるよう支援している。また、コロナの感染状況を見ながらで感染対策を行い、ドライブに出掛け、気分転換が図れるよう支援している。	事業所周辺の散歩は日常的であり、近隣住民と挨拶を交わす等の交流もよく見られる。感染症対策のためドライブは車中からの見学としているが、季節を感じることもできる花見や公共施設に出かけている。生活の中でもプランターの水やり等、外気を感じることができる。	

グループホームひまわりの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は、ご家族の了解を得たうえでご本人にして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎや、ご家族へ電話した際、本人様と変わり会話の機会を設けている。また定期的なたよりを発行しご家族様共に喜ばれている。ご利用者の方々も気持ちや表情が豊かになれる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全に配慮したうえで、廊下等共有スペースには、行事の写真や季節感のある飾り付けを行い、居心地よく過ごせるような空間作りをしている。	入居者が集うリビングは長閑な田園風景や山の様子を眺めることができる落ち着いた雰囲気である。入居者の生活や関係性、身体状況、安全に配慮し椅子を配置し、食卓の他に椅子やソファ等を所々に置き、好きな場所で過ごすことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関先にベンチを設置したり、ホールにマッサージチェアやソファを設置し、一人でゆっくりしたり入居者同士で会話を楽しむ空間となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた布団や家具等持参して頂き、出来るだけ自宅にいるような雰囲気になる様心掛けています。ベッド上においては、いつも枕や布団の位置を整理整頓しておくよう心掛けています。	入居以前から使い慣れた生活用品の持ち込みを依頼している。安全に配慮し、入居者それぞれに合わせた生活用品やベッド等の場所も検討しながら安心して心地よく過ごすことができる工夫を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下幅を広くとっており、歩行車を使用している方同士でも余裕をもってすれ違いができる。動線には手すりや介助バーがあり安全に、過ごして頂ける様配慮している。		

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム ひまわりの里

作成日 令和6年 4月13日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	40	食事を作って、なんとか出すだけになっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者様と一体感を持つような食事を提供する。 ・利用者様の希望をふまえるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・メニュー内容の告知、調理を共同で行う。 ・個人の好きなメニューを時々、取り入れる。 	3か月
2	18	<ul style="list-style-type: none"> ・希望日に外出ができない。 ・職員数や業務上（急な休み等）の為、希望に対応できない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・希望した外出ができる。 ・ドライブレクを実施し、入居者の方達を好きな場所へお連れする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの外出の希望を伺い、経過記録に記入する。 ・外出の計画を立てる。 	3か月
3	54	<ul style="list-style-type: none"> ・整理・整頓・清潔・清掃の強化が出来ていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本人が居心地良く、過ごせるようにする。 ・入居者の方と一緒に衣類の整理を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プライドを傷つけない様に気を付けながら入居者と一緒に居室内の清掃や整頓を行う。 ・入居者の汚れた物を一緒に洗濯し洗濯たたみを行う。 	6か月
4	25	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者の身体機能・認知機能が全体的に低下しており以前まで出来ていた事が出来なくなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者の自立支援や個別リハを重視しグループホームでの生活を維持できる様にしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活リハ（洗濯たたみ・小鉢の盛り付け）等を行ってもらい個人の残存機能を活かした取り組みを行う。 ・個別リハを実施し身体機能の維持に努める。 	6か月
5	35	災害対策についての訓練。特に人員が少ない時間帯での非常呼集訓練。	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回、行われている消防訓練に関して、夜間を想定した訓練を実施する。 ・自宅待機者が速やかに集合できるかを訓練する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議等で地域への訓練実施の申し合わせを行う。 ・J・実際に非常呼集訓練を行い全員が速やかに集合できるような連絡を実際に行う。 	6か月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

★USBに入力し提出してください